

## 【温故知新シリーズ】 本校にはこんなブロンズの坐像もあるのです



坐像に記された銘によると、『想い 1993年 二紀展 西川王女』と題され、「平成 11 年 12 月 贈 城戸雅子」と記されています。

この坐像は、原作が校長室に一体、展示用の作品が来客用玄関に一体置かれています。

第 17 代校長の佐伯洋昌先生の時代に寄贈された作品と思われます。

展示用の作品は、校舎が改築後に、校地内に展示するという話もありますが、詳細については今後、検討していきたいと考えています。

### 【校長室文庫の紹介】

#### 『あしたの太鼓打ちへ』

林 英哲 著

音楽の専門家から薦められて読んだ本。  
著者の林 英哲 氏という方は、平成 2 年には、仙台の青年文化センターの柿 落としコンサートに出演したほど仙台にもゆかりがあり、国際的にも非常に有名な太鼓の演奏家とは知らなかった。

とにかく、太鼓に懸ける情熱がひしひしと伝わってきて、「この人にはかなわない」と感じさせられた。使い古された言葉だが、「たかが太鼓打ち、されど太鼓打ち」という表現にぴったりの人だと感じた。

「あしたの太鼓打ちへ」という小見出しで後輩に伝えたいメッセージがいくつも記されているが、それを読むと、これは太鼓打ちだけではなく、多くの若者に伝えたいメッセージだということが分かってくる。

腕を動かすのが、太鼓の練習だと思っているからね、いけないんで。「目」をええ、「耳」をええ、「頭」と「足」も使いなさい。腕だけに頼っていると、ケガをするよ。

#### 『未来のきみが待つ場所へ』

宮本 延春 著

昨年の秋から暮れに「いじめ問題」が全国的に話題になったときに発行され、テレビや新聞でも取り上げられた本。

著者は、愛知県の私立高校教師。小学校時代からいじめにあい、学校嫌い・勉強嫌いになり、自殺未遂までしてしまう。中学校 1 年の成績はオール 1 という状態で、高校進学もままならず大工になろうと専門学校へ。

ラーメン屋を営む両親にはケンカが絶えず、生活も困窮状態が続き、一家団らんにはほど遠い家庭の状況で、著者が 18 歳の時には両親とも死別してしまい、天涯孤独となってしまう。

その後、「どのようにして、高校に進学し、国立の名古屋大学理学部に入学できたか、そして、どうして高校教師になったのか」、著者はいじめを受けていたり、落ちこぼれたりしている小中学生にこの本を読んでほしいとの想いでこの本を著したそうです。

(つづやき) 公立高校の推薦入試日は明日 1/31。私立高校の一般入試日は明後日 2/1 から。

3 年生の担任の先生方は『人事を尽くして天命を待つ』という言葉で、生徒を励ましてくれたらどうか。「大雪が降っても受験会場に、たどり着け」と言ってくれたらどうか。

「受験終了後、間違いに気づいてもクヨクヨするな」と言ってくれたらどうか……。